

御殿場の文化の継承Ⅱ ～継承の基礎となるもの～

平成27年1月

御殿場市社会教育委員会

目 次

はじめに		1
1 研究にあたって		2
2 研究の視点「地域づくり」		4
3 研究の視点「伝統行事への子どものかかわり」		1 3
4 研究の視点「伝統行事への理解を深める」		1 9
おわりに		2 1

はじめに

御殿場市社会教育委員会では、地域文化が将来にわたり受け継がれていくことが、地域の絆を強くし活性化につながるものと考え、平成23・24年度期に「御殿場の文化の継承」を報告いたしました。

平成25・26年度期の社会教育委員会では、前期報告で明らかになった課題について、アンケートや具体事例の調査を行い、さらに研究・議論を重ねてまいりました。

本委員会では、「御殿場の文化の継承」のためには、文化を育んできた地域コミュニティが十分に機能していること、そして、次の継承者である子ども達に文化の価値を十分に理解させることが重要であるという視点にたち、必要な方策をできるだけ具体例を挙げて「御殿場の文化の継承Ⅱ～継承の基礎となるもの～」として報告いたします。

本委員会の報告が、御殿場市の文化の継承に寄与するとともに、地域の伝統行事や活動に躍動感と潤いを与える一助となれば幸いです。

平成27年1月20日

御殿場市教育委員会 教育長 勝又 将雄 様

御殿場市社会教育委員会

委員長	芹 澤 義 廣
委 員	瀬 戸 亮 策
委 員	藤 本 豊
委 員	高 橋 靖 典
委 員	菊 池 いづみ
委 員	勝 又 明 雄
委 員	岩 田 妙 子
委 員	芹 澤 文 夫

副委員長	木 内 幸 代
委 員	岩 田 福 代
委 員	米 光 博
委 員	横 山 千枝子
委 員	林 久美子
委 員	黒 柳 信 子
委 員	林 永 野

1 研究にあたって

(1) 前期報告書「御殿場の伝統文化の継承」要旨

前期報告は、文化を「地域に残る伝統芸能や行事」と定義し研究を行いました。報告では、現状における課題として、伝統行事を知る機会が少ないことや、地域への帰属意識の低下、後継者不足、閉鎖的な地域性などが挙げられました。そして、これを解決するための取り組みとして、委員から次の4つが提案されています。

- ① 伝統文化の広報活動
- ② 地域への帰属意識を高揚させるための施策
- ③ 子どもを参加させるための活動
- ④ 行政の協力

(2) 継承すべき「御殿場の伝統文化」の定義

前期の報告書では、伝統芸能を念頭に伝統行事を含めて議論を進めました。

しかし、地域には芸能を伴わない祭りや風習、伝統行事も多く、また、「地域文化が将来にわたって受け継がれていく」ことを考えるためには、芸能を行事全体の中の一部と考えることとしました。

そこで、今期の社会教育委員会では、文化を「地域に残る伝統行事」と定義し直し、地域の歴史や文化を伝えている伝統的行事の継承について研究することとしました。

(3) 御殿場の伝統行事の特徴

御殿場の伝統行事は、集落を単位とした小地域ごとの神社の祭式や伝承などが中心で、地域ごとにそれぞれの独特の行事を継承していることが特徴です。これにより、現在まで歴史や文化が「伝統行事」という形でそれぞれの地域に残されています。

また、上記と異なり、1つの大きな祭りが核となり、街全体で伝統行事を受け継いでいる地域もあります。江戸時代から引き継がれている「山車」と「しゃぎり」が名物の三島大社の大祭（三島市夏祭り）は古（いにしえ）からの大祭で、町内会ごとに「しゃぎり」が伝承されています。

また、山形花笠まつり、よさこい祭り（高知）などは、比較的新しい時代（昭和40年代以降）に観光や地域づくりのために創設された新たな地域行事です。

（４）研究の視点

今期の研究は、前期の「委員からの提案」を受け、研究の視点を次の３つとし、問題解決のためできるだけ具体的方策を提示できるよう研究しました。

① 地域づくり

地域活動に多くの人々が参画することが、伝統文化の継承につながる。継承を支えているのは地域の役員と住民であり、地域コミュニティが崩壊すれば伝統文化は継承できない。

② 伝統行事への子どものかかわり

子ども（高校生まで）に見せる、体験させることが、文化継承することへの布石となり伝統文化の継承につながる。

③ 伝統行事への理解

伝統行事の意味や歴史を地域だけでなく、広く知ってもらうことが継承のために必要である。地域伝統行事の歴史や意味を知ることが、継承活動への理解につながる。

2 研究の視点「地域づくり」

(1) 伝統行事の継承と地域コミュニティ

伝統行事は、その地域の歴史や文化を住民に伝える意味を持っています。伝統行事は、多くの場合、区長・組長などを中心とした自治会組織が支えており、保存会などの一部の関係者だけでは、継承することができません。伝統行事を今後も継承していくためには、まず、これを支える地域コミュニティが維持されている必要があります。

そこで、地域コミュニティが活性化していくために、できるだけ多くの住民が地域に関心を持ち、そして参加・参画するための方法について考えました。

(2) 地域コミュニティの活性化と地域行事

各地域では、コミュニティ活性化のために、体育祭、文化祭、防災訓練など住民が参加する多くの行事を実施しています。現在は、住民が率先して伝統・地区行事に参加することはなく、自由参加の風潮があります。このような現状において、多くの住民が参加・参画できる行事を開催することは、住民の地域への関心を高める上で重要です。多くの住民にイベント・行事へ参加してもらうには次のような工夫が必要です。

- ① 伝統的行事について、地域住民に行事の目的や由来を理解してもらいましょう。伝統行事は、多くが神事・仏事に由来していますが、行事の実施者が次々と変わる場合も多く、目的や由来を伝えていくのは容易ではありません。地域での行事実施者（役員や当番などの実務者）は、行事の目的・由来をよく理解する必要があり、参加者にも行事の目的や由来を周知し、動機付けすることが重要です。
- ② 日頃からのあいさつや声掛けが大切です。地域住民が「地域行事に出てこない」と言う前に、参加への声掛けができているかを見つめ直すことも必要です。
- ③ 1つの行事で多くの参加者が見込めない場合は、例えば、公民館まつりと防災訓練、子ども会行事と地域行事を合わせて開催するなど、複数の行事を合わせて開催する工夫もあります。内容ばかりでなく、多くの住民が参加しやすい実施方法にも工夫が必要です。

- ④ 防災訓練は参加への理解が得られやすい地域行事です。自主防災組織を活用し、移動世帯にも地域活動に関心を持ってもらうことは、コミュニティの活性化とともに、結果として「災害に強いまちづくり」にも繋がります。

(3) 地域特性に合った行事計画

市内各地域は、その成り立ちや発展の経過、住民の世帯構成など、それぞれ地域特性があります。この地域特性をしっかりと考えた上で活動に取り組むことも大切です。

- ① 居住して間もない若年世帯が多い地域（神山区・栢ノ木区など）
- ・ 課題…若年世帯は、地域への帰属意識が低く住民参加が得られない。
 - ・ 取組…子どもを対象とした行事を行うことで親世代の行事参加を得て、コミュニティ活動参加へのきっかけとする。
- ② 居住年数、移動世帯率などが御殿場市の平均に近い地域（川島田区など）
- ・ 課題…世帯の居住年数の長短や流動性などが様々で、統一的理解を得ることが難しく、一部の住民や役員の活動で終わってしまう。
 - ・ 取組…幅広い世代の住民が参加できる行事を行い、コミュニティの一体化を目指す。
- ③ 高齢化が進み流入世帯が少ない地域（印野区など）
- ・ 課題…行事の担い手が確保できない。
 - ・ 取組…幼少期から伝統行事に触れることで、地域への帰属意識を高める。また、高齢者も含めて、全ての住民が興味、関心を持って参加できるよう活動の工夫をする。
- ④ 移動世帯が特に多い地域（二の岡区、新橋区など）
- ・ 課題…近隣との付き合いが希薄なアパート住民などは、地域への帰属意識が少なく、地域行事への参加が得られない。
 - ・ 取組…自主防災組織を活用するなど、まずは住民への声掛けをすすめる。

(4) 「コミュニティ活動を盛り上げる地域行事」のためのヒント

代表的な行事や特徴的な行事についての研究でわかってきたのは、御殿場市内でも地域ごとに特性があることです。以下では、各地域の特性に合った行事の実施方法の工夫を紹介します。

◇ヒント1【自主防災活動】

災害時の助け合いは、どの地域でも必要です。自主防災事業は、その地域の絆をつくり孤立者をなくすなど、お互いのことを知り地域情報を共有する役割を持っており、重要なコミュニティ活動と言えます。

平成26年11月22日に長野県北部で震度6弱を観測した地震では、白馬村は全半壊の住宅59棟と大きな被害に見舞われました。しかし、地震直後から、安否確認や救助作業が住民同士で行われ、死亡者は1人も出ず火災も食い止められ、住民の共助の見本として報道されたことは記憶に新しいところです。

また、中学生や高校生は、勉強や部活動などに忙しく、地域活動に参加することは難しい状況ですが、現在、学校では、地域防災訓練への参加呼びかけや部活動の時間帯の配慮が行われています。防災訓練への参加をきっかけに体育祭や文化祭へのボランティア参加を進め、少しずつでも行事に参加、協力することで、地域の一員としての意識を高めていくことが期待できます。

◇ヒント2【行事の併催】

行事に人が集まらない場合は、複数の行事を1回にまとめて実施する考え方もあります。例えば防災訓練と公民館まつりを一緒に実施する、子ども会行事に合わせて大人対象の行事を実施するなどの工夫で、多くの住民が集まることが期待できます。

◇ヒント3【子どもにとって魅力ある行事を考える】

昔の思い出には、お祭りに夜店があった、お菓子がもらえたことが嬉しかったなどがありますが、現在の子供達には、日タイベントや行事が溢れており、昔ほどお菓子に集客効果は期待できません。

しかし、昔も今も、人が集まって何かを成し遂げることで、高揚感や一体感が味わえることは変わりありません。大人が子どもの頃に楽しかったことを、今の子どもにも味あわせてあげたいという想いを原点にしながら、何が魅力なのかをもう一度考える必要があります。

この様な中で、伝統行事は、普段見慣れない神輿や神事など、子ども達にとって貴重で新鮮な非日常体験です。子ども達に、神事・仏事の由来をしっかりと伝えて参加を呼びかけていくことが、魅力ある行事づくりに繋がります。

◇ヒント4【組織づくり】

多くの住民参加を目指すために、イベント・行事の中心役員を、輪番・順番とせず、担うことができる者、継承することができる者を選考している地域があります。また、伝統の継承のために、担当全員が毎年入れ替わることのないように、半分ずつ交代するなどの対策を行っているところもあります。

一方、組長や班長などを輪番にすることは、住民全員が地域に関わる機会になるという意味があります。今、多くの地域行事では、「行事を実施すれば終わり」といった場合が多くありますが、しっかりとしたコミュニティ活動（地域づくり）が行われるための組織づくりを行う必要があります。

（５）特色ある地域行事の例示

市内各地区では、多くの魅力ある、特色のある行事が行われています。その中で、いくつかの事例をまとめてみました。いずれも、他の行事に参考となる内容となっています。

印野区護摩祭の様子（P11 に事例４で紹介）



村山修験者による宝弓の儀



「サイト」に護摩木を投げ入れる子ども達

事例 1) 神山区ふるさとまつり

神山区は、神山平の宅地分譲が一気に進んだことにより、昔から暮らす世帯が受け継いできた地域文化を守るとともに、居住年数の短い世帯との交流やコミュニティを形成するために、新たな“まつり”を創成しました。地域が多くの人を受け入れるために、チャレンジ精神を持って、新しい取り組みを行っています。

実施主体	神山区
運営主体	実行委員長は区長、企画運営の中心は区地域づくり委員
行事名	神山区ふるさとまつり
期日（期間）	毎年 10 月第 3 日曜日（土曜日準備、日曜日片付け）
会場・場所	神山区内（株）時之栖さくら広場
内容	1 子ども神輿と子どもサッカー 小学生が神輿を担いで広場内を練り歩く。子ども神輿は子どもたちにとってふるさとの思い出づくり。子どもサッカーは J F A の子ども（中高校生）とのふれあい。一人ひとりの目標を育てたい。 2 各組による出店（現在 8 店舗） 組員全員で焼き鳥・やきそば等料理し区民に低料金でふるまう。出し物は基本的に自分たちで考え提供する。 3 大抽選会 祭り日前に抽選会用紙を全戸配布、組と氏名を記入し、祭りの当日提出。大抽選会は祭りの最後に行う（抽選会時にいない者は当たっても権利なし）。 4 その他 区民が踊りを披露（舞踊・フラダンス）、カラオケ大会実施。

○特徴的な内容

- ① 住民による新たな“まつり”の創成
- ② 子ども神輿を主体とする、全住民参加型イベント
- ③ 「区民の輪と絆」をテーマにとにかく参加してもらう
- ④ 区内企業や事業所との連携＝企業や事業所も区民のひとり
- ⑤ 継承するためには「年に一度はまつりがある」意識づくり

事例２）川島田区北組広源寺祭り子ども相撲

現代は、境内や周辺道路の夜店に人が集まる“まつり”は、なかなか開催できません。大きな神社祭典などと別に、地域住民の多くが参加する古くからの祭りは、より小さな地域が密接につながる価値を持っています。川島田区では、子供相撲を中心として古くからの祭りが続いています。

継承のためには、住民に、その神事・仏事をまつっていた目的や由来を十分に理解してもらう必要があります。

実施主体	川島田区北組
運営主体	組長を中心とした組有志
行事名	広源寺（地元では観音さん）祭りと子ども相撲等
会場・場所	川島田区内 広源寺
期日（期間）	7月18日（現在は直近の日曜日）
内容	広源寺は大乘寺の末寺で無住。帯観音菩薩（子育て観音）像厨子を開帳し、祭典の後、境内の土俵で地元小学生の相撲を奉納すると共に、今年誕生した子どものための奉納煙火を上げる。 伝統ある行事で、子どもの育成を願い寺内に大きな絵馬が奉納されている。寺の境内には石塔類が並べられ、特に2基の大きい常夜塔は、江戸時代文化十年（1814年）の刻みがある。 仏事が、組（北組）の行事として行われているのが特徴。昔から暮らしている世帯を中心とした「やらなくてはならないから続ける」精神により継承されている。祭典参加者は地元旧家中心だが、祭り自体には組の大部分の住民が参加する。子ども相撲は子どもの親、家族が応援、見学に集まるので100人近くなるが、奉納相撲であることを知らない人も多い。組の各家庭から料理を持ち寄り参列者の直会に食べる風習が残っている。

○特徴的な内容

- ① 伝統仏事の継承
- ② 厨子開帳、子ども相撲奉納、新生児奉納煙火
- ③ 細く長く続けている

事例３）報徳文化祭

複数の区にまたがる行事で、各区から実行委員を選出し管内が一体となって運営しています。実行委員には、部農会、婦人会、青年団、老人会、体育委員、文化委員、消防団等あらゆる役員が含まれており、幅広い住民が企画も参加しています。３０回近い歴史ある行事ですが、若年層から高齢者まで、広い世代を取り込むプログラムの工夫をしています。参加者にとっては１年の活動の目標となっています。また、前夜祭は、実行委員の士気を上げ一体感を生むのに役立っています。

実施主体	御殿場愛郷報徳社（管内の仁杉、北久原、栢ノ木、西田中地区など）
運営主体	実行委員長はコミセン館長（報徳社代表理事）、各区（組）のコミセン運営委員及び文化委員
行事名	報徳文化祭
会場・場所	報徳コミセン（仁杉・北久原コミュニティ供用施設）
期日（期間）	１１月上旬 土・日曜日
内容	１ 舞台発表 同好会・婦人会・老人会から、幼稚園児・保育園児・小学生も歌や踊りの発表を行う。 ２ 展示部門 盆栽・手工芸などから、小中学生・幼稚園児・保育園児の絵画や書道など多種多様な展示を行う。 ３ 模擬店・即売会 婦人会、青年団、報徳青年部、老人会、おやじの会、部農会がそれぞれ出店する。 ４ 前夜祭 芸人を呼んで手品や大道芸、歌手のものまねなどがある。飲み物、つまみ付、参加者の飛び入りカラオケ有り。 ５ 抽選会（当日）あり。出品者、発表者全員に参加賞あり。子供には参加賞の外、入選者に賞状や記念品を贈る。

○特徴的な内容

- ① 報徳社管内では文化行事が活発であり、日頃習っている事や自分で作ったものを発表する場があることで自身も励みになり、他の人達の事も知ることができ交流の一助となる。
- ② 地域の人々の芸術文化に対する意識の高揚や、また、幅広い年代層の交流を深めるため、幼児から老人まで参加できるプログラムとしている。幼児期から参加することで行事に対する理解が深まり、その後も年齢に応じた形で参加している。

事例４）印野区護摩祭の復活

印野区では、６０年近く途絶えていた護摩祭を復活しました。復活にあたっては、区に「ゴマの日」という言葉が残っていたことで地区民の理解が早かったこと、また、富士山世界文化遺産登録により富士山周辺の信仰に注目が集まり、村山の人々が復活に協力的であったことが追い風となりました。

第１回目の開催時には、区民全員に護摩木を配布するなど、まずは多くの区民に見てもらうことに努めて、「来年もやろう」という機運が高まりました。

途絶えていた行事の復活は、とても大変ですが、地域づくりへの大きな力になります。

実施主体	印野区
行事名	日曜山光真寺護摩祭
会場・場所	日曜祭光真寺境内
期日（期間）	８月末の日曜日
内容、経緯	区民体育祭終了後に、全区民を対象に護摩焚を行う。 印野では、かつて、富士宮の村山に住む修験者が富士山での修業の一環として来訪して光真寺境内で護摩を焚き、これに合わせて印野本村で盛大な祭りを行っていたが、戦後約６０年近く途絶えていた。区民は、８月に行う区民体育祭の日を、今でも「ゴマの日」「ゴマの運動会」と呼んでいたが、その由来を知らない住民がほとんどであった。 区は、富士山世界文化遺産登録を機として、約６０年近く途絶えていた護摩の祭りを復活させようと実行委員会を組織し、平成２５年８月に護摩の神事を行った。 護摩の神事は、修験者がホラ貝を吹いて参道を歩き、祈禱を行う。儀式は、途絶えていた村山修験の復活に取り組んでいた地元富士宮市村山の人々の協力を得て行った。区では、今後も継続して実施していくこととしている。

○特徴的な内容

- ① 地域伝統行事の本来の意味を学び直し、古来の行事を復活させた。
- ② まずはとにかく区民に見てもらい、参加してもらう。
- ③ 協力の押し付けでなく、行事由来の伝承周知をしっかりと行った。

事例５）高根どんたく

中郷館・高根ふれあい広場は、高根に暮らす人々のふれあいの場、スポーツ、文化活動の拠点となっており、拠点施設を活用した地区民の繋がりを広げる事業として「高根どんたく」を行っています。

地区では、地区民全員参加を基本方針として、実施主体・運営主体の組織づくりを重視した行事運営を行っており、中心となる実行委員は有志により組織されています。併せて、子ども達の地元を大切にすることを育むために、学校とも連携して中学生全員が参加しています。

実施主体	高根地区
運営主体	高根文化振興会、高根どんたく実行委員会（委員長は高根支所長）
行事名	高根どんたく
会場・場所	中郷館
期日（期間）	１０月第４日曜日
内容	１ 高根地区の文化団体が一堂に集い、日頃の活動や練習の成果を発表する機会とする。竜良ドームでのステージ部門２５団体、中郷館での展示部門２５団体が参加する。 ２ 幅広い年代の参加を促すための工夫として、保育園児、小中学生の発表の場を設定し、高根中学校全校生徒がボランティアを行っている。 ３ 住民が楽しむイベントの工夫 芸能人や有名高校部活の招待、屋外の出店１９団体（安価が基本）、地区民対象の大抽選会、イベント部門１５団体、高根で収穫したもち米の大もちまき大会、餅つき大会（つきたての餅の振る舞い）、とん汁も無料サービスを行う。

○特徴的な内容

- ① 地区の幅広い各種団体が実行委員会に加わっている。また、役員選考にあたっては、地域づくりに積極的な人が組織の中心となるよう、また毎年変わることはないように配慮しているとともに、反省会をすぐに実施して次回に生かしている。
- ② 中学生による演劇「怒る富士」を毎年の演目としている。地域の先人たちの苦労を地域住民が確認する機会になるとともに、中学生演者が毎年変わり地域の子どもの成長を楽しむことができる。

3 研究の視点「伝統行事への子どものかかわり」

(1) 伝統的な行事への子どもの参加調査

伝統行事と子どものかかわりの現状を知るため、市内の子ども会を対象に「伝統的な行事への子どもの参加状況調査」を行いました。

調査は、市内のすべての子ども会支部の支部長に調査票を配布して行い、回答率は78%（全64支部、回答50支部）でした。

(2) 調査結果

アンケートの設問ごと回答は次の通りです。設問の1～3、5は記述式の回答、4は選択肢に○を付ける方法で回答してもらいました。

設問1 子どもが参加する地域の伝統行事（記述式回答）

行 事	子どもの役割	備 考
神社祭典	神事／お囃子（太鼓、笛）／神輿／相撲／綱引き／山車巡行	多くの子ども会で実施
どんど焼き	竹・つる集め／お飾り集め／書初め	竹・つる集めは柴怒田区のみ
なりもつそう		六日市場区
護摩	護摩木に願いを書く	印野区
盆踊り	踊りの練習・参加	多くの子ども会で実施
その他	神社清掃	多くの子ども会で実施

設問2 子どもの役割別、練習期間（回数）と指導者（記述式回答）

子どもの役割	練習期間	指導者
太鼓、笛、舞（お囃子）	2～3 か月程度で全10回／ 1 か月毎日／5～7 日程度／ 2～3 回程度	保存会／上級生、中学生／子ども会役員／ 地域の人
神輿組立、飾り作り		地区役員／子ども会役員
盆踊り	練習なし／1～3 回	地区の踊りの先生
相撲	練習なし／土俵入り練習	子ども会役員

設問3 参加の制限（記述式回答）

参加制限はほとんどなく、現状として子ども会の小学生が中心でした。幼児は自由参加、中学生はごく一部参加する状況です。

＜参加制限の具体例＞

- 神輿担ぎ（組み立て）、お囃子、笛・太鼓などで、子どもの身体的発達などを考慮して高学年を指定する場合
（笛は学校で習い始めてから、神輿組立は6年生 など）
- 舞、相撲で性別を限定する場合
（北久原神楽舞：男子、高根地区相撲：男子）

設問4 伝統行事についての理解（選択式回答）

(1) 保護者や子ども会役員は、この行事の意味や発祥について知っているか。

- 10% ア 概ね知っていて、子どもに説明できる(5)
 - ◎ 46% イ なんとなく知っている(23)
 - 32% ウ ほとんど知らない(16)
 - 10% エ その他(5)
- 行事に参加する保護者は知る機会がある／4年生以上には案内が配布される／古くからいる人以外は知らない
- 6% 未回答(3)

(2) 子どもは行事について、意味や発祥を知っているか。

- 24% ア だいたい知っている(12)
 - ◎ 58% イ 知らない(29)
 - 12% ウ その他(6)
- 行事に参加する子どもは知る機会がある／祖父母と同居の子は知っている
- 6% 未回答(3)

(3) 伝統的な行事の意味や発祥について、地域で学ぶ機会があるか。

- 6% ア ある(3)
 - 40% イ 保存会など内容を知っている人はいるが教わる機会はない(20)
 - ◎ 44% ウ 学習機会はなく、誰に聞けばいいかもわからない(22)
 - 6% エ その他(3)
- 主催者も本当の意味が分からなくなっている／中学校で劇を演ずることで勉強する
- 6% 未回答(3)

設問5 その他の意見（概要）

伝統行事について、行事の重要性や継承の大切さに理解を示す意見が多くありました。一方で、子どもの減少や子ども会の負担増などを理由に、将来に向けての継承は難しいと考える意見も多数ありました。

また、現在は行事の意味を知らないが、行事への理解が深まることで今後の継承にも効果があるという意見が多くありました。

（3）調査からわかること

全国的に少子化が進み、子ども会組織の維持が困難になる地域が増える中、御殿場市は、すべての地域に子ども会が組織され、その加入率もほぼ100%を維持しています。多くの子どもたちは、子ども会行事の一つとして地域の伝統的文化行事に参加しており、子ども会は、子どもたちが伝統的な文化的行事に接する機会を提供するうえで非常に重要な役割を果たしています。

また、伝統行事の実施主体が、行事運営の一部を子ども会に任せている現状もアンケートから伝わってきました。



しかし、子ども会の世話人や子ども達の中には、伝統行事についての理解が十分でなく、「毎年の行事なので参加（実施）している」という人も多くいます。

「新橋小学生和太鼓教室」の練習風景（P18 に事例2で紹介）

（4）伝統行事への子どものかかわりを深めるために

子ども達が伝統行事に接する機会がある中で、伝統行事の継承のために不足しているのが、その歴史や由来についての理解です。理解を深めるためには、伝統行事の継承者や実施者が、意識して、粘り強く伝統行事について説明していく必要があります。

具体的には、神輿・山車の巡行、太鼓・笛の練習、奉納相撲など、子どもがかかわる行事を開催する時に、地域の継承者が、参加する子どもに行事の意味や歴史を説明するなど、機会をとらえて丁寧な教育を行うことが必要です。

また、子ども会世話人や保護者など、子どもと一緒に行事に関わる大人も、伝統行事の由来や歴史を知り、体験することで、伝統行事への理解が深まります。このことが、コミュニティ活動全般を理解することにもつながり、結果的に行事継承への協力者を得ることができます。

例大祭（宵祭り）で演奏する「新橋小学生和太鼓教室」（P18に事例2で紹介）



事例１）子どもが中心的に継承している例「吾妻太鼓」

.....

団体名		吾妻太鼓	実施主体	御殿場区
伝承形式	対 象	小学校４年生～６年生の区内児童が中心		
	指導者	演奏経験のある区内の年長者・小学生の時に太鼓を習った大人		
	内 容	吾妻太鼓・神輿渡御のお囃子		
	活 動	吾妻祭４月第一日曜・祇園祭　７月最終日曜 （どちらも３年に１回）夏祭りの引き屋台　ほか		
行事概要				
かつて「神武天皇祭」と呼ばれた吾妻祭では、夕方になると余興として山車が引き回される。この祭りは３年に１度しか本祭が行われないが、山車の上で打ち鳴らす「吾妻太鼓」は、御殿場区の祭礼の目玉である。 かつては上町、仲町、下町と、それぞれに太鼓の楽譜があったが、組織が変化する中で消え、現在は１つの町の楽譜で演奏している。地区以外で演奏を行うときには『吾妻太鼓』の団体名としているが、実際は「お囃子保存会」を兼ねており、参加している子どもたちの誰もが神輿渡御と吾妻太鼓を演奏することができる。吾妻太鼓の披露は、例年の夏祭りの引き屋台でも行われている。				
子どもの参加経緯				
祭礼は、かつては青年団が運営していたが、青年団の減少に合わせ祭礼の運営組織が変化し、昭和４０年代には既に女兒の練習参加がみられる。現在参加者に年齢制限は設けられていないが、小学生に練習参加を呼びかけており、参加者の多くは小学生とその弟、妹である。これに加え、本番には何人かの中学生在が参加している。 練習は、吾妻太鼓（太鼓）と神輿渡御のお囃子（横笛）を行い、当日は吹けなくても自分の横笛を持たせ演奏させる。				
特徴的な内容				
横笛は難しく、練習では吹けない子や、太鼓のリズムがよく分かっていない子もいるが、それでも祭の本番の中で演奏しているうちに皆上達していく。祭りまでの努力、地域の大人と行動した記憶、祭りの楽しい雰囲気や演奏で注目を浴びた高揚感が、その後の活動へのきっかけとなっている。現在、指導者や演奏者として協力している大人の中には、皆で祭りに参加した経験があったことがきっかけで活動を始めた者もあり、子ども時代の経験が、若い指導者の参加にもつながっている。				

※同様の形態を持つ組織…二の岡お囃子保存会

小学生に『吉田神社祭礼のお囃子』の太鼓を伝承し、大人が鞆鼓（かっこ）、鼓（つづみ）や笛を小学生が太鼓を演奏している。

事例２）伝統行事への理解を深めるための取り組み例「新橋小学生和太鼓教室」

.....

実施主体		新橋浅間神社祭祀保存会
伝 承 形 式	対 象	新橋子ども会の児童
	指導者	新橋祭祀保存会の構成員
	内 容	小学生和太鼓教室による太鼓演奏の伝承
	活 動	夏休み中から１０回以上の練習を行い、１０月の例大祭（宵祭り）で山車の上に乗り披露する。また、１１月に行われる新橋区文化祭でも太鼓演奏を披露する。
取り組み経緯		
新橋浅間神社例祭の宵宮祭で引かれる山車の上での演奏を目標に「和太鼓教室」を行っている。取り組みは５年前に始まり、太鼓やお囃子継承の一助として、新橋区の子ども（小学生）を対象として太鼓の練習会を開いている。５年が経過し、中学生、高校生となった子どもたちも太鼓の練習に参加している。また、宵宮祭に加え地区文化祭でも太鼓を披露し、地域全体の伝統行事理解にも一役買っている。		
特徴的な内容		
子ども達に「和太鼓教室」として、地域の伝統行事に触れる機会が提供されている。指導者の負担が大きく、教室の継続は容易ではないが、子どもの上達は早く、また、楽しく活動しており成長後の活動が期待される。		
参加者の感想		
【御殿場南小学校６年生 山崎恒さん】 小学生最後の宵宮祭や文化祭での発表は、とても緊張しました。締太鼓や中胴とは違う大胴という太鼓も叩くようになり、本番ではそれを一人でたたくので一層緊張しました。でも、練習成果を出し切って頑張り、たたき終わったときはとても気持ち良かったです。一緒に練習した仲間が応援してくれたり、先生が「落ち着いて」と励ましてくれたので、とても楽しい宵宮祭や文化祭での発表ができました。またやりたいと思います。 【保護者 山崎晶子さん】 上の子が４年生の時から参加していて、今年で３年目になります。子ども達は、練習も本番もとても真剣に、そして楽しそうに叩いています。 このような地域の伝統文化に触れることができ、親子ともいい経験になりました。小学生和太鼓教室を通して、地域の伝統が今後も受け継がれていくといいな、と思います。		

※同様の取り組み例…北久原子ども神楽

伝統芸能の湯立神楽に興味を持ってもらうため、青年団や保存会が小学生に笛、太鼓、神楽舞を教え、地域住民が多く集まる風祭で披露している。

4 研究の視点「伝統行事への理解を深める」

(1) 伝統行事への理解を深めるために

「伝統文化が継承されている」とは、単に行事が継続して実施されている状態を指すのではなく、行事の意味や由来を地域住民が理解し、伝統行事の価値が十分伝えられていくことです。

地域住民が伝統行事を理解するためには、行事の意味や由来を知ったうえで、現存する行事に実際に触れることが必要です。

(2) 理解を深めるための地域の具体的取り組み

まず、地域行事に触れてもらうために、現在実施されている伝統行事についての広報が必要です。回覧板などを利用し行事の開催案内を行っている場合にも、「〇〇例大祭、〇〇神社、〇時から」など、初めて目にする人には、どのような催しで自分が参加できるのかが不明な場合もあります。「厄災を払う伝統行事です。当日は、子ども相撲や甘酒の振る舞いもあり、どなたでも参加できます。」などと添え書きするだけで参加しやすくなります。

また、現在、多くの区が広報紙を発行しています。すでに、広報紙で、行事の開催に合わせて行事の歴史や由来を取り上げている区もあり、行事に関わる住民への広報効果があります。

そして、子どもが参加する行事については、保護者や子ども会役員などに、氏子などの行事継承者が行事の意味・由来を説明し、加えて、行事開催前などに子どもに説明する時間を設けるとよいでしょう。

時には、氏子総代会、保存会など、実施関係者が集まる機会に行事の歴史などを確認しあうことも大切です。

(3) 行政の取り組み

行政は、将来に渡り伝えるべき伝統行事や文化、芸能について調査を行い、また、保全のために「文化財」として指定するなど、地域文化の継承に一定の責任を負っています。

御殿場市では文化財審議会や行政担当者がテーマを定めて調査・研究を行い、報告書等の形で公開しています。これらの研究では、特定の芸能や地域文化に注目するだけでなく、時には御殿場市域を超えた地域比較なども行い、御殿場の地域文化、伝統芸能の姿をとらえ、価値付けを行うよう努めています。これ

らの基礎的調査や研究そのものが、御殿場の伝統文化を「記録」として継承する作業です。

ただし、本来の意味での継承には、これらの研究成果を報告書として公開することはもちろん、講座・講演、展示などにまとめ、わかりやすい啓発活動を行っていく必要があります。このような、伝統行事や地域文化の価値を広く理解してもらうためのこの取り組みを絶やさずに続けることが、行政に課せられた役割です。

しかし、広報・啓発活動には注意すべき点もあります。本市に残っている伝統的行事は、「1 研究にあたって（3）御殿場の伝統的行事の特徴」でも触れたように、一定の地域（集落、村）の成り立ちの中で生まれ、継承されてきました。このような成り立ちから、行事を継承している地域では、地域の伝統行事を地域外に紹介することや、地域住民以外の者の見学を望んでいない場合もあります。このことは、地域外の伝統行事を知る機会を少なくしている反面、長い間、地域の独自の文化が変わらずに残されている要因でもあります。

また、伝統行事の多くが神事・仏事に由来しています。文化的側面に加えて宗教的な側面があることを念頭に置くことも必要です。

行政は、これらに十分配慮し、地域の考え方を十分尊重したうえで、広く伝統行事への理解を深めていく責務があります。

おわりに

地域に残る伝統文化、伝統行事の多くは、地域住民の生活を脅かす災いを払い、また、生活の安心を祈り無事に感謝するための「しきたり」や「伝統行事」がルーツです。かつて住民は、これが地域に平安をもたらすと信じて守り受け継いできました。そして、伝統行事を実施することが、地域住民同士の絆を確認し、コミュニティの機能を高める意義も果たしていました。

社会環境が変わり、「しきたり」や「伝統行事」の継承を支えてきた地域コミュニティは、住民同士のつながりが希薄になり、その機能を維持することが難しくなっています。現代においては、「伝統行事」が存続されていることは、地域コミュニティが機能している証とも言えます。

今期の社会教育委員会では、地域住民にコミュニティの意義を改めて認識してもらうことこそが、御殿場の文化の継承につながるという視点で議論を重ねてきました。「御殿場の文化の継承Ⅱ～継承の基礎となるもの～」をまとめることは、伝統行事が継承されてきた原点を確認する作業でした。

また、研究の過程では、御殿場の子どもたちが、伝統行事の実施において、大きな役割を果たしていることが分かりました。私たちは、次世代を担う子どもたちが、伝統文化に接する機会を持っていることに安心するとともに、振り返って私たち大人が、担うべき役割や責任を改めて知ることができました。

現在、住民の日常生活において、地域コミュニティのつながりが希薄になっていることは事実ですが、災害時の共助に代表されるように、地域に期待される役割が改めて注目されています。本委員会の報告が、御殿場市の文化の継承に寄与するとともに、地域コミュニティ活性化や次世代を育成する取り組みの一助となれば幸いです。